



—東地中海地域ニュース—

イラン情勢(29) : シーア派最高権威モンタゼリー師の死去

研究員 山崎 和美

イラン・イスラーム革命（1979年）の中心的指導者の一人で、改革派の精神的支柱であったホセイン・アリー・モンタゼリー師が12月20日、イスラーム教シーア派の聖地コムで自宅で亡くなった。87歳だった。

モンタゼリー師は、シーア派イスラーム法学者の最高権威マルジャエ・タグリードで、1986年、専門家会議により次期最高指導者後継者候補に選出された。しかし、ホメイニー師との間で度々意見が対立し、1989年3月、ホメイニー師はモンタゼリー師を最高指導者候補から外した。結果、シーア派イスラーム法学者としては中位（ホッジャトル・エスラーム）のハーメネイー大統領が、第2代最高指導者に就任した。

モンタゼリー師は「ハーメネイー師は最高指導者としてふさわしくない」と発言するなど、体制を批判したため、97年以来5年間自宅軟禁された。しかし、改革派の精神的支柱として宗教的、政治的な影響力を持ち続けた。本年6月の大統領選挙後は、アフマディーネジャード大統領が改革派の抗議デモに対し革命防衛隊の動員部門である民兵組織バスィージを投入して武力鎮圧したことを痛烈に批判した。ムーサヴィー元首相ら改革派にとって、モンタゼリー師の死は大きな痛手となる。

一方で、数千人の支持者たちがモンタゼリー師の葬儀に参列しようとコムへと移動を開始した。体制側は、葬儀が反体制デモに繋がることを警戒し、大量の治安部隊を投入している。

折しも、12月18日（金）からムハッラム月（イスラーム暦第1月）が始まった。シーア派の人々にとって、追悼集会はとても重要な意味を持つが、第3代イマーム、フセインが殉教したムハッラム月に入ると、彼の殉教日であるムハッラム月10日（アーシュラー）に向けて、連日追悼集会が開かれる。アーシュラーにおける追悼集会とモンタゼリー師の葬儀に参列する人々の熱狂の渦が情勢を大きく動かす可能性もあり、予断を許さない状況にある。